

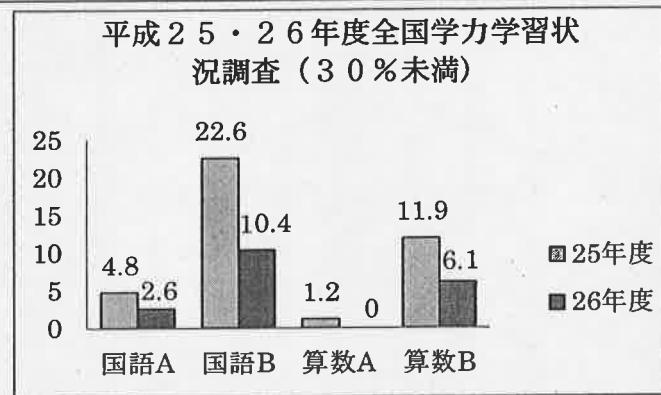
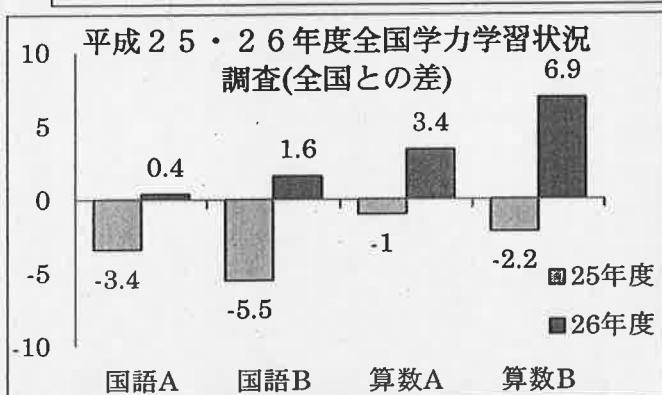
石内小学校

H24・25 授業改善推進校（言語・数理運用科、算数科）
H26 授業改善推進校（言語・数理運用科、国語科）

～「ゴールから作成する」授業作り～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A B、算数A Bともに全国平均を上回ることができました。特に算数のB問題は全国平均を大きく上回りました。
- 国語A B、算数A Bともに30%未満の児童の割合が大きく改善されました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 全学級で「めあて」「まとめ」カードを活用するとともに、本時で目指す評価規準（児童の姿）を達成するための授業づくりである「授業はゴールから作成する」を意識した授業改善の取組をしています。
- (2) 考えを伝え合い、深め合う授業づくりを目指し、児童の思考の跡が残るワークシート及び板書の工夫、自分の考えを伝えたり広げたり深めたりするための話し合い活動の工夫等について研究を進めることで、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図っています。
- (3) 授業後の協議会では、授業前に協議の柱を示しておき、それをもとに協議を行います。児童の発言、ワークシート等への記述等をもとに授業構成、教師の指導の意図、教師の支援等を振り返り、全教職員で授業改善の取組の方向性を共通理解しています。

(1) 「ゴールから授業づくり」の取組

授業の終わりに、児童がどのような姿にならよいのかを、本時の目標、評価規準をもとに授業設計を行っています。評価規準を児童の姿で具体的にイメージして「ワークシートにこんなことを書いてほしい。」「このような発言が出て欲しい。」このような目標を達成した児童の姿にせまるために、「中心活動は何になるのか。どのような活動にしたらよいのか」「時間配分をどのようにしたらよいのか」「どのような支援をしたらよいのか」など、ゴールからの授業づくりに

取り組んでいます。

これらの取組により、明確な「めあて」を児童に示し、それに対応する「まとめ」を行うことができ、付けたい力が明確な授業を行うことができるようになってきています。

(2) 考えを伝え合い、深め合う授業づくり

思考力・判断力・表現力育成のために、児童が思考しやすいワークシートの工夫や、児童の思考する時間の確保に努めています。

児童にどのように思考させるのか、思考したことをどのように書かせるのか、ワークシートの工夫を行うことで一人一人の児童にしっかりと思考させています。また、自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことで更に自分の考えを深める話し合い活動も取り入れています。

その他にも、ワークシートと板書を連動させることにより、児童が思考したことを整理し、児童の考えを本時の目標にむけてまとめていく取組も行っています。

これらの取組により、児童は思考力・判断力・表現力が育成されるとともに、意欲的に授業に参加する児童も増え、児童同士のかかわりも深まり、自尊感情も育まれています。



児童の思考の跡を残すワークシート



児童の思考を整理する板書

(3) 児童の発言、ワークシートを根拠に振り返る協議会

研究授業では、協議の柱を事前に伝えるとともに、教員が観察する児童を決め、それをもとに授業観察を行います。

協議会では、具体的な児童の発言、つぶやき、ワークシートの記述内容をもとに協議の柱に沿って協議を行います。

具体的には、「子どもが○○とつぶやいていたので、▲▲は効果的だった。」「子どもの話し合いの内容は□□だったので、教師の○○という支援は☆☆であった。」のような子どもの見取りと授業分析をもとに協議が行われます。

研究授業の教科の話だけで終わるのではなく、どの教科でも共通となる授業改善に向けての協議になるようにしております、次の日からの授業に生かせるようにしています。

【校長先生からのメッセージ】

本校は、授業の基本を大切にしています。いろいろな年代の先生方がいる中で、どの先生にも伸びてほしいと思います。特に若手教員が多いので、授業力を学校で育てていく必要があります。それにはチームワークが必要です。「みんなで若手教員を育てる」「ベテラン、ミドルリーダー、若手教員それぞれの役割を果たす」、そして何よりも、「全員が同じ方向を向いて進んでいく」ことが大切だと思います。本校はとてもチームワークがよい学校です。

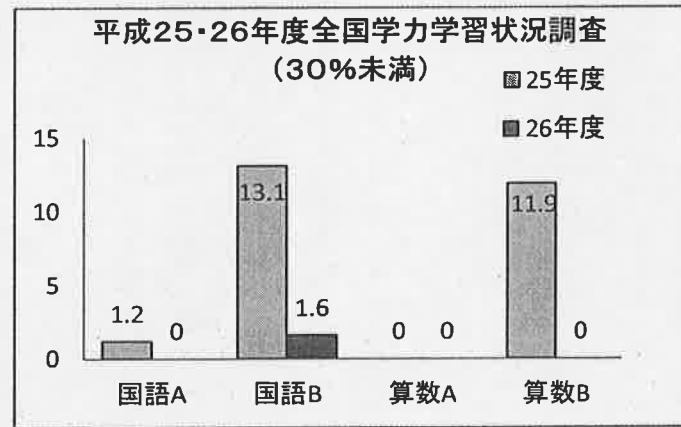
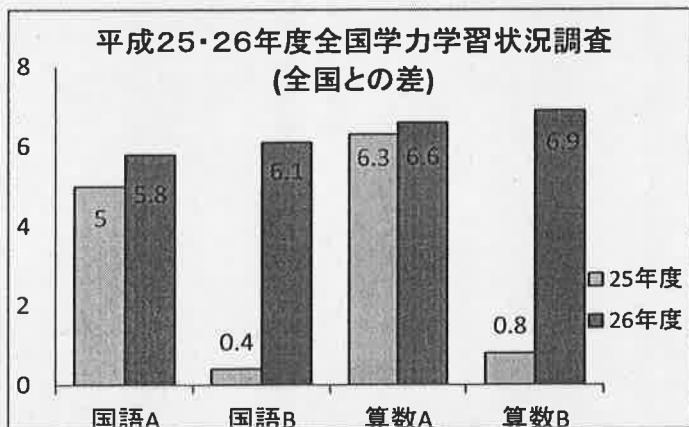
安西小学校

H25・26 授業改善推進校（算数科）

～めざす児童の姿の具体化と共有化～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A B、算数A Bともに全国平均を大きく上回りました。特にB問題は、平成25年度を大きく上回っています。
- 国語A、算数A Bで、正答率30%未満の児童が0になりました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 既習事項の定着を図る取組や、既習事項を活用した自力解決の充実をめざす研究を進めることで、自分の考えを伝えたい、友達の考えを知りたいと思う児童を育てています。
- (2) 自分の考えを相手に分かりやすく伝える方策や、ペアトーク等のグループ活動の効果的な活用を研究することで、児童の表現力の向上を図っています。
- (3) 校内研究授業において、評価の視点を明記したシートを活用して児童の姿を見取り、それをもとに協議会を行うことで、教職員全員でめざす児童の姿の具体化と共有化を図っています。

(1) 自力解決の充実をめざす研究

帯時間の活用や家庭学習の内容の工夫などを通じて、計算力の向上を図りました。1～4年生の週2回の帯タイムを百マス計算の日としました。1～4年生については、百マス計算用のノートを全員購入し、ノートの表紙に学年・組を記入せずノートは持ち上がりとしました。そして、学年主任会で取組の進捗状況を報告し、基礎的・基本的な計算力の定着を図っています。

校内全体研修会では、全学年が授業公開し、具体的な授業場面での自力解決に向けた手立てについて研究を進めました。児童の姿から、本時までの既習事項の定着、本時に必要な既習事項、問題提示や課題のつかませ方、自力解決のための本時の手立て等を評価し協議していました。

児童からは、「自分の考えをみんなに見せました。結果は間違っていたけど、自分の考えをもつことができたのでよかったです。」「○○君が分からないと言い、みんなの考える元となりました。

考えも1つだけでなく2つ出てきておもしろかったです。」「黒板に書いた式の説明ができませんでした。でも、○○さんが助けてくれたので助かりました。」などと、自分の考えをしつかりともち、相手に伝えたい他の考えを知りたいという思いをもった感想が聞かれました。

(2) 相手に分かりやすく伝える方法の指導

自力解決場面の思考の充実を継続し、思考を整理し表現する場の一つとして、ノート指導の充実を図りました。年度はじめにノートの雛形を示し、各学年の発達段階や実態に応じて工夫をしていました。

説明が苦手な児童への支援の一つとして、各学年の発達段階や実態に応じて話型を工夫し掲示しました。

【5年生の話型】

●「伝え合いの宝」について	
伝え合いの宝 一語り始めの言葉—	
○例え…	自分の考えたことを何か具体的なものに置きかえて話す。 「例えば、これを10とします。そうすると…。」
○だって、でも	反例をあげたり理由を述べたりしながら話す。 「だってかけられる数が…。」
○まず、それから	考へている筋道を整理して話す。区切りながら話す。 「まず直方体になるように2つに分けて…。」「それからたてと横と高さの長さを…。」「ここまではいい?」
○だったら	活動の先を考えて話す。 「だったらその数がもっと大きくなると…。」
○もしも	発展を考えたり、ものごとを整理したりして、一般化して話す。 「もしも五角形ではなく三角形だと…。」

【児童のグループ活動の様子】



また、伝え合う経験の場を数多く設け、伝え合うことに慣れたり分かりやすく伝え合うコツをつかんだりすることができるよう、ペアトーク等のグループ活動を効果的に活用しました。

(3) めざす児童の姿の具体化と共有化

各学年を基盤に取組を進めています。学年会において、教材研究や成果・課題の共有をし、学年主任会で取組の進捗状況の確認を行っています。さらに、児童の実態を把握するために6月を授業参観月間とし、全学級の授業公開を行い取組のプランを確認しています。

校内全体研修会の授業後協議会では、評価の視点を明記したシートを全教職員が持って児童の姿を見取り、付箋紙を用いて協議会を進めます。教師の手立てが有効であったかどうかに視点をあてて協議を行い、改善案の提示までねらっています。

最後に、今日の研修会を通して学んだことの整理を個人で行い、それを発表して全教職員で学びを深めています。

【校長先生からのメッセージ】

本校では、どの学級でも同じ学びを保障できるよう、具体的な児童の姿を共通理解し研究を進めています。各学年や各ブロックで、指導案を検討するだけではなく授業観察も行っています。どの教員も、楽しんで研究や授業をしています。

【評価シート（1年生）】

児童名	評価の視点	○ or ×
	○ 「そのわけは」という言葉から語り始め、説明している。	
	○ 相手の反応を確かめながら説明している。	
	○ 「例えば」という語り始めの言葉や図を使って説明している。	
	○ その他の良い点：	
	● 友達の意見を自分の言葉に置き換えたり、質問したりしている。	
	○ 「そのわけは」という言葉から語り始め、説明している。	
	○ 相手の反応を確かめながら説明している。	
	○ 「例えば」という語り始めの言葉や図を使って説明している。	
	○ その他の良い点：	
	● 友達の意見を自分の言葉に置き換えたり、質問したりしている。	

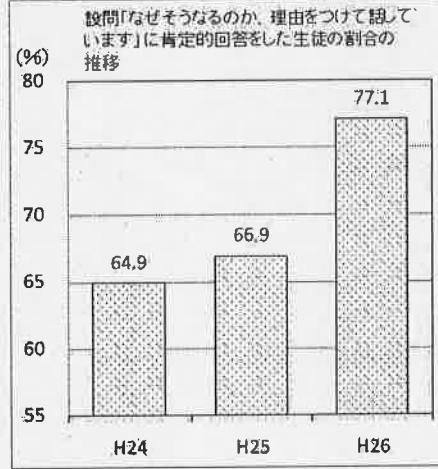
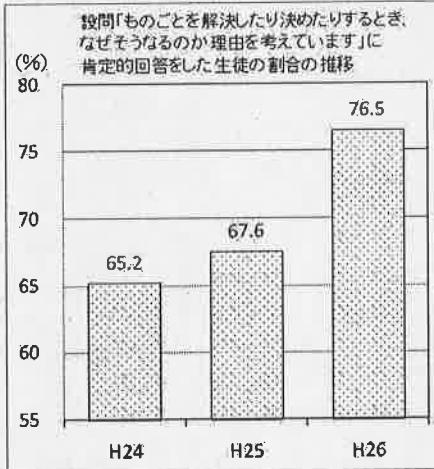
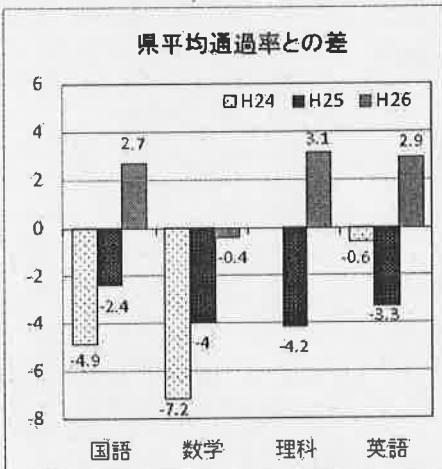
矢野中学校

H24・25 学校人権教育研究推進中学校区

～効果的な指導方法等を全教員が共有し、継続的に実施した取組～

1 「基礎・基本」定着状況調査の結果

- 全ての教科で通過率の向上が見られました。
- 理由を考えたり、理由をつけて話したりする生徒が増加しています。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 「矢野中学校授業モデル」を作成し、全教員が共通認識をもって「聴く・つなぐ・もどす」を軸にした授業改善に取り組んでいます。
- (2) 4つの研究チームで、チームテーマを設定して、研究授業を組織的・計画的に実施しています。

(1) 全教員が共通認識をもつための取組

本校では、「本時の目標の明示」、「ポイントを絞った板書」、「目標に即した中心発問の設定」、「目標に対する振り返りの設定」の4つからなる「矢野中学校授業モデル」を作成し、「聴く・つなぐ・もどす」を中心に据えた授業づくりに取り組んでいます。全教員が共通認識をもって組織的・計画的に授業改善に取り組めるよう、年度始めの研修会で、授業モデルの考え方について全教員で研修しています。

矢野中学校授業モデル

①めあて	本時の目標（つけたい力）を板書等で文字によって明確に示す。その際、この1時間で何ができるのかが、生徒にはっきりと分かるようにし、本時の振り返りが効果的に行えるようにする。また、本時の目標の根拠は学習指導要領に求め、学習指導要領に示された指導事項を確実に指導できるようにする。
②板書	生徒が学習の流れやポイントを確認しながら授業に参加したり、復習の際に役立たせたりできるように、分かりやすくポイントの絞られた板書を行う。そのため、「めあて」や「主要発問」の板書、色チョークの効果的な使用などの視覚支援を取り入れる。板書計画を立てる際には、どのような発問によって板書を構成するのかという「発問計画」と合わせて考えると良い。また、ノート指導を継続的に行うことで、工夫したノート作りができる力を養う。
③指示・発問	一度に一つの指示・発問を基本とする。授業のねらいに即した「中心発問（高いレベルの課題）」を設定し、それが、すべての生徒に明確になるように、言葉や表現を吟味する。
④振り返り	本時の目標に対して、自分の達成度はどうであるかという視点で、授業の振り返りを行わせる。生徒が行う自己評価や相互評価は、児童生徒の学習活動であり、教師が行う評価活動ではないが、児童生徒が自身のよい点や可能性について気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めること等学習の在り方を改善していくことに役立つ。

(2) 4つの研究チームで効果的な指導方法を共有

組織的に授業改善に取り組むため、教員をA～Dの4つの研究チームに分け、それぞれのチームが「学び合うための協同学習」、「安全・安心・学びのための学習規律」、「すべての子どものためのユニバーサルデザイン」、「心を通い合わせる挨拶・学習環境づくり」というテーマで研究に取り組んでいます。4つの研究チームは、中学校区で統一しており、年に3回合同研修を実施しています。

各研究チームでは、チームで学習指導案を作成、検討したり、模擬授業で教材や指導方法の見直しを図ったりしています。また、年間1人1回以上の研究授業を実施し、チームで観察し合い、効果的な指導方法の在り方について研修しています。

各研究チームの研究成果は、年度末に報告書としてまとめ、校内で共有するとともに、小中連携教育研究会で、中学校区全体で共有しています。

【実践例】第2学年 社会科〔地理的分野〕「日本の諸地域」中国・四国地方

〈本時のめあて〉 A町の過疎対策を考えよう！

「生徒が作成したワークシート」



既習事項や資料から読み取った情報を活用して過疎対策を考えさせ、それを説明させる授業を行いました。

導入で、「A町（安芸太田町）」と広島市の人口密度、学校数、病院数等を比較させ、「A町」が過疎地域であることを見いださせた後、「A町はどのような過疎対策を行えばよいのだろうか」と発問しました。

生徒は、提示された資料から必要な情報を読み取り、広島市と比較しながらA町の過疎対策を考えました。個々に考えたことを小グループで話し合わせることで、生徒は、自分の考えを資料を使って説明し合い、考えを深めることができました。

まとめでは、既習事項や資料から読み取った情報を活用して過疎対策を考えることができたかどうかについて、振り返らせました。

A町の過疎対策を考えよう！！

本時の目標 A町の過疎対策を考えよう。

1. あなたが考えるA町の過疎への対策

(1) あなたの考える対策を一冊で・・・

祭りや大規模な行事が行われる場所を作り、A町に人を集めよ

(2) 対策

対策番号	読み取れること
4.	A町には2つのインターネットが設置されており、A町だけではなく、Tさんたちが集まることができます。
6.	A町に詰めることのできる空き家がたくさんあります。そのため場所を借り、新たな企画を行う場所を作ります。
7.	A町には特産品がたくさんありますので、その食べ物や料理工芸品を始めた祭りや行事が行われます。
8.	お祭りが行われるのに、会場や席などの数が足りないため、そういう場所を増やして、いけば良いと思ふ。

(3) 対策の詳しい内容

A町の特産品がたくさんあることや、空き家がたくさんありますなど、これらのことを使って、祭りや大規模な行事ができます。場所を作ることには、A町だけではなく、他の県や町でも、観光客などと一緒にA町に来れるし、A町は、お祭りや行事や物語の中心をたくさんたくさん行うことができる場所が少ないから、大規模な行事がお祭りでもできます。場所を増やすれば、A町にもっと人が来てもらえると思う。

【校長先生からのメッセージ】

「矢野中学校授業モデル」を作成したことで、教員が同じベクトルで授業づくりに取り組むことができるようになり、生徒が考えたことを伝え合う活動を取り入れた授業が増えてきました。

各研究チームの研究協議会では、生徒の学びの過程はどうだったか、意味のあるグループ活動だったかなどの視点から、教科の枠組みを越えた協議ができつつあります。

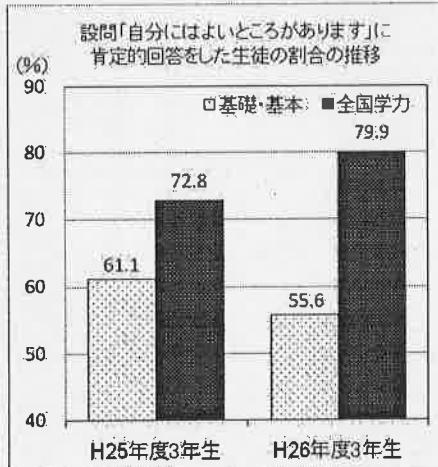
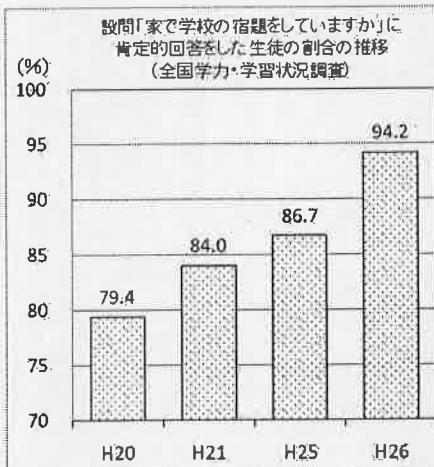
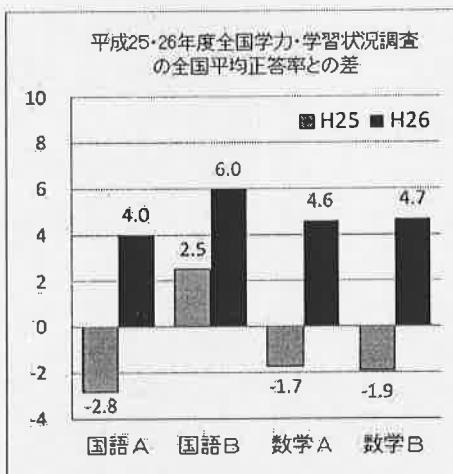
二葉中学校

H24～26 まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業モデル校

～生徒の自己肯定感や自尊感情を高める取組～

1 学力調査の結果

- 「知識」・「活用」のどちらも向上しています。
- 家庭で学習する生徒の割合が増加しています。
- 生徒の自己肯定感や自尊感情が向上しています。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 生徒の学習意欲や基礎的・基本的な学力の向上を図るために、地域の方々の協力を得て、学習支援活動を実施しています。
- (2) 学習習慣の定着を図るために、生徒一人一人に「自主学習ノート」を配布し、自主学習時間が多い生徒に感謝状を贈呈しています。
- (3) 生徒の自己肯定感や自尊感情を高めるために、地域貢献活動を実施しています。

(1) 地域住民等による学習支援活動の実施 ～まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業～

「できる喜び」や「分かる喜び」を実感させることで、生徒の学習意欲の向上を図るとともに、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、地域の方々等に学習支援者（サポーター）になっていただき、放課後や夏休みに学習会を実施しています。昨年度は、定期テスト期間を中心に放課後学習会を4回実施し、年間を通して全校生徒の約半数が自動的・意欲的に参加しました。

学習会は、教員が授業で把握した生徒の課題を基に作成したワークシート（絆プリント）を使用したドリル学習や、生徒が持参した問題集等に取り組む自主学習等を行っています。

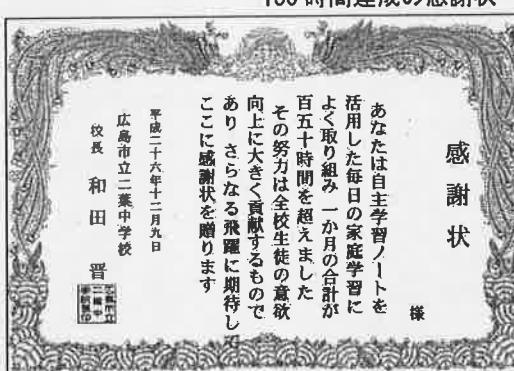
生徒と学習支援者が問題と一緒に考えたり、生徒同士が教え合ったりすることで、生徒は、「サポーターに教えてもらってよく分かった。」「友達が教えてくれてうれしかった。」など、分かる喜びを実感し、学習意欲が向上するとともに、自己肯定感や自尊感情も高まっています。



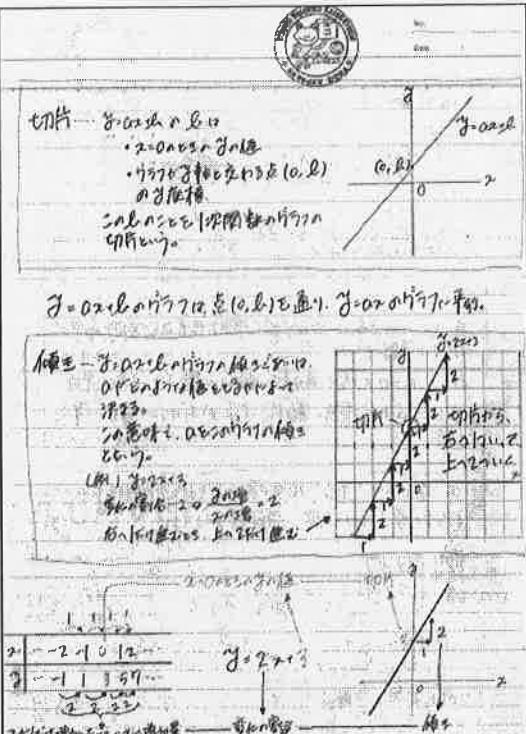
(2) 「自主学習運動」を実施

家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多くいたため、「家で毎日1時間以上自主学習することができる生徒を70%以上にする」ことを目標に、昨年度から、生徒一人一人に自主学習ノートを配布しています。生徒は、毎日1ページ以上、その日に受けた授業の内容をまとめたり、次の日の授業の予習をしたりしています。

1ヶ月の自主学習時間が、塾での学習を除いて100時間以上に達した生徒には、全校生徒の意欲向上に貢献したとして、毎月の全校朝会で、感謝状を贈呈してい



ます。家庭学習を継続することで、自分と二葉中学校の未来づくりに大きく貢献したことを、先生達から感謝されることを通して、意欲的に家庭学習に取り組む生徒が増加しています。



(3) 地域貢献活動の実施 ~まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業~

生徒の自己肯定感や自尊感情を高めるために、中学校と小学校、家庭、地域が協働して実施する地域清掃体験活動「クリーンマイタウン二葉」や、プランターや地域の散歩道への花苗の植え付け、小学校区のふれあいまつり等でのボランティア活動などの地域貢献活動を実施しています。

「クリーンマイタウン二葉」に参加した生徒からは、「みんなで取り組むことで、より達成感が得られた。」「活動を通して、地域の方々の優しさに触れることができ、私たちは地域の方々に支えられて生活していると感じた。」などの意見が聞かれ、約8割の生徒が充実感・達成感を感じたと答えています。



また、保護者や地域の方々からは、「生徒さんに草取りをしていただき、公園がきれいになりました。ありがとうございました。」「中学生が小学生をフォローしながらリードしていく姿に感動しました。」などの意見が寄せられており、こうした褒められたり、感謝されたりする体験等が、生徒の自己肯定感や自尊感情の向上につながっています。

【校長先生からのメッセージ】

二葉中学校は一体感がある学校づくりと生徒・教職員の自尊感情を育むことに重点的に取り組んできました。授業改善、学習習慣の形成、家庭・地域との連携強化による学力向上や生活改善等の成果から生徒は自信を高めました。

「小学校・家庭・地域とともにさらに前進を！」と、学校は活気に満ちています。